

1. データ駆動型ソリューションに係る教育研究の活動

1-1. 特別教育プログラム「実践データサイエンス力育成プログラム」の教材の充実化について

特別教育プログラム「実践データサイエンス力育成プログラム」の3年次開講科目「数理データサイエンス」の教材は、動画、およびテキストに沿った Jupyter Notebook 教材で構成される。連携企業 ISE により動画の更新が行われ、最新のソフトウェアバージョンに合わせた形で、使用しているプログラムコードの修正を行うことを中心に教材の充実化が図られた。来年度に向けては、より最新のトレンドに合わせてカリキュラム教材の全面的な改定を行う予定である。

1-2. 数理データサイエンス実践演習の実施（3日間/年1回）について

科目「数理データサイエンス実践演習」は、特別教育プログラム「実践データサイエンス力育成プログラム」の2年次開講科目「アルゴリズムとデータ構造」、3年次開講科目「数理データサイエンス」から続く、数理データサイエンス実践力育成を目指す本プログラムの主軸科目である。科目「数理データサイエンス」の受講生の中から選抜した20名に対して、理学部委員と ISE 講師陣の指導を伴うグループワーク形式で、9月28日（土）から9月30日（月）の期間に実施した。アンケート結果によれば、企業社員複数人が現地での授業に参加し、その場で質疑ができる環境があることにより、理解の促進ができたと考えられる。また、将来的にデータサイエンティストを目指す学生も、アンケートの結果から去年度と比べて増加傾向にあり、この授業を通じて進路の1つとして考える学生が今後増えていくことが予想される。

1-3. 地方自治体等の課題解決を目指したデータ駆動型ソリューションに係る企画について

特別講義「データサイエンスによる地域課題探究」を新規に開講し、特別教育プログラム「実践データサイエンス力育成プログラム」で身につけた、データの理解・分析、機械学習による分析等のスキルを地方自治体等の課題へ適用し、その結果に基づいた改善提案等ができるようになることを本講義の目標とした。

地方自治体として藤枝市と連携し、情報デジタル推進課担当者との情報交換を通じて、藤枝市が抱えている課題のうち犯罪予防を選定した。科目「数理データサイエンス実践演習」の受講生の中から7名が受講し、藤枝市の担当者から解析の背景・目的等の説明を受けた後、静岡県警が公開している軽犯罪に関するオープンデータ、KDDI の人流データ、及び天候データを活用し、受講生はそれらデータの紐づけ作業、解析及びその解釈とそれに基づく提言の整理を行い、招聘した藤枝市の担当者に向け最終発表を実施した（2025年1月22日）。また、受講生は藤枝市から招待を受け、藤枝市長および警察署長へ研究成果を発表し、北村市長から「データに基づく提言は非常に説得力がある。研究結果を防犯施策に反映していきたい」との講評を得た（2025年2月12日）。

<https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/material/files/group/1/20250305koho.pdf>

https://www.at-s.com/feed/article/pr_times/1650402.html

https://dg.chunichi.co.jp/prtimes/tokai/article.php?guid=c109487_r203

2. 初等・中等教育における数理 DS 教育に係る活動

昨年度報告した全国学力・学習状況調査のデータ分析の方法に、新たに開発した分析方法を1つ加え、引き続き講習を行った。

07/25 富士宮市学校指導員・研修主任研修会、 08/28 静岡市学力向上専門家委員会

09/17 静岡県学力向上連絡協議会、 09/24 御前崎市授業改善推進委員会

10/07 静岡大学教育学部同窓会磐田市部地区連絡員研修会

11/22 静岡県教育委員会指定研究・掛川市立大須賀中学校区研究発表会、 12/10 富士市アフター5講座